

報寺教專

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺

題字 大橋曾水

〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033

TEL.0866-82-0488

URL:<http://www.senkyoji.com/>

E-Mail:senkyoji@cocoa.ocn.ne.jp



ご挨拶

住職 釋龍生

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、西本願寺では親鸞聖人七五〇回大遠忌が厳修され、尊いご勝縁に遇わせて頂き専教寺でも住職継職奉告法要を厳修して、新たな寺歴を刻む機縁となる慶ばしい年となりました。しかし日本では三月十一日に平成七年に起きた阪神淡路大震災以来の希有の自然災害、東日本大震災が発生して、多くの尊い命が奪われました。テレビでは連日、津波に

よって人の命が一瞬にして奪われるシーンや、愛する人、身内、友人、知人の死を悼む映像が流されて、改めて命の尊さを思い知らされる年となりました。

最近テレビを見ていたら、アルピニスト（登山家）の野口健さんがこんな話を話されていきました。野口さんは、世界の山々を登頂されているベテラン登山家です。中でもヒマラヤ山脈の山肌は氷河で覆われていて、登頂するには氷河の上を登る訳ですが、氷河の上には生き物が全くないそうです。そして生き物がいないと匂いが全くしないそうです。私たちは日常いろいろ匂いに囲まれて生活しています。自分の体臭、ペットの匂い、他人の匂い等。言うなれば私たちはごく当たり前のように様々な命に囲まれて生活しています。しかし自分の側から全く生き物がいなくなった時、人間はどんな行動を採るのでしようか？ 野口さんは生き物のいないヒマラヤ山脈の氷河の上を登頂しながら、無意識に何らかの匂いを探していたそうです。人間は常に自分の側に何らかの



命の気配を感じていないと落ち着かないんですね。私は野口さんの話を聞きながら、浄土

し、また誰とも繋がっていない人間なんて何処どこにもいないという事です。

衆生をたすけんがための願にまします。しかれば本願を信ぜんには、他の善も要にあらざ、活している、「ごく当

真宗の教えの一つ、悪人正機を思い浮かべました。人間は野菜、肉、

親鸞聖人の語録の間書まぎがき「歎異抄」という書物の第一条に、「弥陀の誓願不思議に

念仏にまさるべき善なきがゆゑに。悪をもおそるべからず、弥陀の本願をさまたぐるほど

魚、米を食べる等、様々な動物の尊い命の犠牲により命を繋いでい

たすけられまゐらせて、往生をばとぐるなりと信じて念仏申さんとお

の悪なきゆゑにと云々。」とあります。ここに出来る掬取

ます。また自分が知らないに拘わらず、全ての生き物や身内や友人、知人、他人と関

わりの差異はあれども、尊い命に囲まれて支え合いながら生活して

罪悪深重・煩惱熾盛の罪悪深重・煩惱熾盛の

専教寺講座

写経

1月21日、2月18日、
3月17日 いづれも土曜日

仏教讃歌

1月26日、2月23日、
3月22日 いづれも木曜日

お気軽にご参加下さい。

門徒総代長 福島信義

迎春

明けましてお目出度う
ございます。

平成二十三年度は、
くしくも親鸞聖人七百
五十回大遠忌法要並び
に専教寺第十四世住職
継職奉告法要を勤修す
ることになりました。
この法要勤修に当たり
出費ご多端な折柄、門
信徒の皆様からは多く
のご懇念を頂きました。
おかげを持ちまして、
本堂内陣欄間・内外陣
の畳・本堂のサッシ・
新住職の夏冬衣一式
・境内参道・庭・池の

整備等の記念事業を完
遂いたしました。そし
て四月二十三日に、法
要が盛大に勤修できま
したこと、誠に喜ばし
く感謝申し上げます。
合掌
平成二十三年も、仏
女の研修、専教寺での
法要諸行事のご奉仕、
お手伝いと仏婦会員は
もとよりご門徒の皆様
には、ご多忙の中ご参
加下さり感謝いたして
おります。

仏婦会長 石井町子

新年 明けましてお

めでとうございます。

ご門徒の皆様にはお
健やかに新年をお迎え
になられた事と存じま
す。
本年もどうぞよろし
くお願いいたします。
昨年には東日本大地震
による災害、原発、大
雨による被害等々目を
被いたくなるような大
惨事が続き、未だに多
くの行方不明者がおら
れるというニュースに
心が痛みます。

誠実、柔順な新ご住
職の就任を迎えて、前
ご住職同様門信徒一丸
となって、新ご住職を
支え専教寺の繁栄に頑
張って参りたいと思っ
ます。皆様のご支援ご
指導を賜りますようお
願ひいたします。浄土
真宗のみ教えを広く内
外に「南無阿弥陀仏」
と聴聞いたします。

新年にあたり、旧年

準備、お手伝いをさせ

ていただきました。こ
 のおめでたい大法要に
 会わせていただいた感
 激が今もよみがえり、
 身が引き締まる思いが
 いたします。

京都西本願寺での大
 遠忌法要にも参加させ
 ていただき、お念仏へ
 の思いが一層深まる年
 となりました。

新聞紙上に連載され
 た「親鸞へ激動篇」が
 終わりました。その
 中で親鸞聖人が頼重房
 にお話しされた言葉
 「目に見えないものを
 信じるということとは、
 まことにむずかしい。

しかもいったん信を得
 ても、それはしばしば
 揺らぐものだ。そのと
 き念仏が、見失いそう
 になった信を呼びもと
 してくれるのではない
 か。信が念仏を生み、
 念仏が信をささえるの
 だ。いまのわたしには
 それしか言えない。」
 が心に残りました。

今年もお聴聞、ご奉
 仕に共々参加させてい
 ただき、お念仏の輪が
 広がりますよう念じて
 おります。そして、平
 穩な日が過ごせたらと
 願っています。合掌

**如来寿量無量命婦
 光議不可無南**

一乗山専教寺
 門徒総代一同
 仏婦役員一同

新年あけまして
 旧年中おめで
 今年お中お話し
 願世よろしく
 おも願い致し
 ます

お知らせ

役員互礼会 1月8日(日)午前11時～
仏婦新春のつどい 1月9日(月)午後1時30分～



永代経法要 4月22日(日曜日)
 法話講師 広島県広島市法専寺 池田 顕雄 師